



東大和ニツ池だより

第2号
(2023年11月)

発行 東大和市
市民環境部環境対策課
編集 認定NPO法人 生態工房
●この印刷物には再生紙を使用しています

東大和市ニツ池公園の「ニツ池」では、外来種の水草や魚が増えたことよって水質悪化や在来種の減少が進行しています。こうした状況を改善するために2023年秋、公園として初の「かいぼり」を行います。

このかいぼりは水質改善や外来種防除だけにとどまらない、生物多様性の損失を止めて回復軌道に乗せていく「ネイチャーポジティブ」の取組です。池の干し上げ中には、岸辺に湿地をつくって生物が生息しやすい環境を整備します。さらに、消失してしまったもう一つの池を復活させる作業も開始します。

多様な動植物が生息し、心やすらぐ狭山丘陵の谷戸を、協働で再生していく取組が、スタートします。



現在のニツ池の景観

かいぼりからはじまる 池の自然再生



池の水を排出し、堆積した泥を吐き出したり池底を干したり、魚を捕ったりする作業。護岸等の施設も点検する。ため池の維持管理に欠かせない作業で、農閑期である秋から冬に行う。近年は公園の池や堀で、水質改善や外来種駆除を目的としたかいぼりが注目されている。

かいぼり



重点対策外来種に選定されているハゴロモ

まずはさかな捕り

ニツ池かいぼりは11月のさかな捕りイベントで幕を開けます。外来魚をしっかりと駆除して、その後の自然再生につなげます。

水を抜いた池に入るのは、倍率2倍以上の抽選で選ばれた一般参加者。公募で創設したボランティア「狭山丘陵保全班」のメンバーと一緒に、さかな捕りをがんばります。

干し上げ中もイベントいっぱい

水を抜いた後、2月までは、底泥を空気にさらして酸化・脱窒を促進し、水質改善を図ります。干し上げ期間中には保全作業イベントも開催。ニツ池を再生したい方はぜひ参加してください！

スイレンを掘ろう！

12月9日(土)、12月17日(日)
池の水質悪化と酸素不足を招いている外来種のスイレンを掘り出します。来年は在来種の水草が生えてくるかも？



ニツ池を掘ろう！

1月7日(日)、1月21日(日)、2月3日(土)
昔の上池跡地を掘って、池をつくります。掘った土は下池(今のニツ池)に運んで湿地を整備するよくぼり企画！



イベント概要

- ◎9時30分～11時30分
- ◎各回20名程度(当日先着順)
- ◎参加無料

作業できる格好でご参加ください。「スイレンを掘ろう！」の装備は市ホームページでご案内します。

ちよこっと

T O P I C S

狭山丘陵保全班が発足!

二ツ池のかいぼりとその後の自然再生活動を市と協働で進めていくボランティアチーム「東大和市狭山丘陵保全班」が発足しました。メンバーは市内外から応募した10代から70代の17名。自然分野の活動は初めてという人が多く、生物多様性やかいぼり、狭山丘陵の自然など5回の講習を受けてスタートしました。10月にはかいぼりに向けて、イベント参加者よりひとあし先に二ツ池デビュー。胴長靴をはいて池に入り、作業経験を積んでいきます。

かいぼりではさかな捕りイベントに始まり、園芸スライレン除去や「上の池」復活作業など、大事な活動が盛りだくさん。かいぼり後も、自然再生のための作業やモニタリングが続きます。狭山丘陵の谷戸の自然を再生するために、息の長い活動をしていくつもりです。



外来種問題の座学



二ツ池に入って魚類調査の実習



このぼりが目印!



在来種のギンブナ(上)とモツゴ(下)



水生生物調査のための定置網回収作業



翅の模様が美しいミヤマアカネ



生きもののモニタリングを開始

二ツ池公園での自然再生活動を始めるにあたり、動植物の生息調査を行いました。調査項目は魚類、トンボなどの水生昆虫、水草、鳥類など。今後も同じ方法による調査を継続し、二ツ池公園に生息している生物の種や量の変化をモニタリングしていきます。



いきものノート

野の彩時記

PAGE2.
ヤマサナエ

春の連休から初夏の頃に、丘陵地の林道などで出会うサナエトンボの仲間。ヤゴは砂礫底の細流に2年暮らして成虫になります。

東京都レッドリスト
絶滅危惧Ⅱ類
(本土部)

